

2018年 日比谷が再び輝きだす

都心型スマートシティ ～国際ビジネス・芸術文化都心「日比谷」の街づくり～ 「(仮称)新日比谷プロジェクト」着工

- 三井不動産株式会社は、千代田区有楽町一丁目所在の「三信ビルディング」(昭和5年竣工)および「日比谷三井ビルディング」(昭和35年竣工)の跡地において「(仮称)新日比谷プロジェクト」として一体的な再開発計画を推進していましたが、本年1月28日に着工し、本日起工式を執り行いました。なお、本プロジェクトは2018年1月末に竣工する予定です。
- 本プロジェクトは、オフィス・商業などから構成される大規模複合開発です。周辺エリアを含めた『国際ビジネス・芸術文化都心「日比谷」の街づくり』の中核を担うプロジェクトであり、日比谷公園や周辺の劇場・映画館と連携した芸術文化発信や、国内外のベンチャー企業・中小企業の事業拡大および新産業創出などを支援するビジネス連携拠点として、昨年末に東京圏で初となる国家戦略特区の区域認定を受けております。
- 本プロジェクトのマスターデザインには、ロンドンを拠点とする建築事務所「ホプキンス アーキテクト」を起用し、歴史や立地特性を最大限に活かした当地に相応しい外装デザインやランドスケープを実現します。
- またこの度、本プロジェクトの商業施設ゾーンにTOHOシネマズ株式会社の出店が決定し、都心最大級のシネマコンプレックスが完成する予定です。日比谷は東宝グループ創業の地であり、当社およびTOHOシネマズ株式会社は、国際的なエンターテインメントイベントの誘致・開催等、街の特徴を活かした魅力と賑わい溢れる街づくりを共に目指してまいります。
- 当社は、本プロジェクトを日本橋地区において推進中の「日本橋再生計画」とならぶ都心型スマートシティと位置付け、『国際ビジネス・芸術文化都心「日比谷」の街づくり』を通じて、東京の国際競争力強化に資する取り組みを一層推進してまいります。



<添付資料1> 「(仮称) 新日比谷プロジェクト」の主な特徴

1. 国際的な芸術文化発信、ビジネス連携等の拠点（国家戦略特別区域）

平成 26 年 12 月 19 日に開催された第 10 回国家戦略特別区域諮問会議にて、本プロジェクトは東京圏として初となる国家戦略特別区域として内閣府より計画認定されました。

2. 当地の歴史や立地特性を活かした「ホプキンス アーキテクト」によるマスターデザイン

日比谷公園との緑の連続性や眺望を活かしたランドスケープや施設計画といたしました。外装は、高層部においては明治期の「鹿鳴館」を始め国際交流や西洋文化の先駆けとしての歴史を踏まえたデザインコンセプト「DANCING TOWER」とし、低層部は三信ビルディングをモチーフにしたデザインとしており、品格あるエレガントな外装デザインを実現しました。



計画建物 6 階「(仮称) 日比谷テラス」
イメージパース



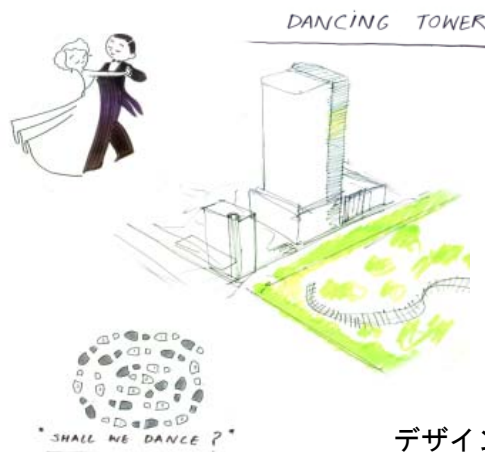
計画建物 1 階外構「(仮称) 日比谷ゲートプラザ」
イメージパース
(千代田区有地と一体的に整備する約 3,600 m²の広場空間)



日比谷交差点付近からの鳥瞰
イメージパース



三信ビルをモチーフにした低層部
イメージパース



デザインイメージスケッチ

3. 東宝グループと連携した賑わいづくり

(1) TOHOシネマズ株式会社による都心最大級のシネマコンプレックスの誕生

建物4階には11スクリーン、約2,300席のシネマコンプレックスの新設に加え、隣接する東京宝塚ビル内のスカラ座・みゆき座(約800席)との一体運営により、全体で13スクリーン、約3,000席の「(仮称)TOHOシネマズ日比谷」が誕生。

(2) 国際的なエンターテインメントイベントの誘致

国際的なエンターテインメントイベント等を誘致することで、日比谷エリア全体の価値向上、賑わいを創出。



「(仮称)日比谷ゲートプラザ」でのイベントシーンイメージ

4. 国内最高水準の安全・安心の提供

(1) 自律性の高いエネルギーシステムの導入

- ①中圧ガスによる発電が可能なガスコージェネレーションシステムの導入と、オイル、中圧ガス双方に対応するデュアルフューエル型非常用発電機の導入により災害時の電力供給の自律性を向上。
- ②停電時、停ガス時に、共用部だけでなく専用部に対しても電気・熱を供給。平常時と同じような環境で業務を継続することが可能。

(2) 最高水準の性能を誇る制震構造

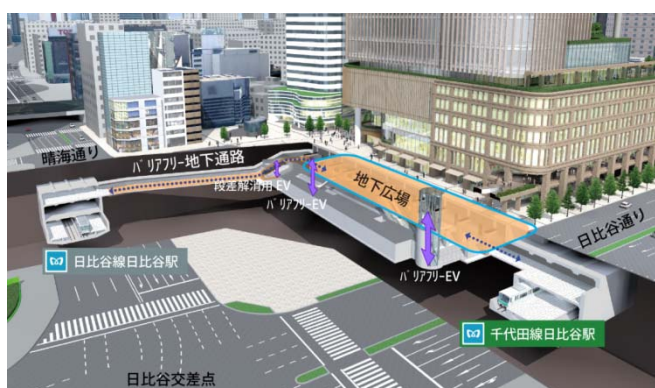
- ①エネルギー吸収力の高い高性能のオイルダンパーを通常の制震構造より多く、かつ効率的に配置することにより耐震性能を向上。
- ②震度7クラスの地震(2000年の建設省告示で規定された地震動の1.5倍レベル)に対して、耐震安全性を確保。

(3) 帰宅困難者受入機能の強化

- ①千代田区最大級となる約5,000㎡の一時滞在施設の整備、災害用備品を保管する備蓄倉庫(約200㎡)を設置。
- ②デジタルサイネージ等を利用し、帰宅困難者に災害時の情報提供などを実施。

(4) 日比谷線と千代田線の「日比谷」駅をつなぐバリアフリー動線の整備

- ①日比谷線と千代田線「日比谷」駅の2駅間をつなぐ地下バリアフリー動線を整備。
- ②地上へのエレベーターを2基新設し、利便性を向上。



<添付資料2> 「(仮称) 新日比谷プロジェクト」 物件概要

計画地	東京都千代田区有楽町一丁目1番ほか	
交通	東京メトロ日比谷線「日比谷」駅、千代田線「日比谷」駅 直結 都営地下鉄三田線「日比谷」駅 直結 JR山手線、京浜東北線「有楽町」駅 徒歩5分 東京メトロ丸ノ内線、日比谷線、銀座線「銀座」駅直結 (徒歩5分)	
主要用途	事務所、店舗、文化交流施設、産業支援施設、駐車場等	
敷地面積	約 10,700 ㎡	
延床面積	約 189,000 ㎡	
階数	地上 35 階、地下 4 階、PH 1 階	
最高高さ	約 192m	
設計	マスターデザイナー・アーキテクト 都市計画・基本設計・デザイン監修 実施設計・監理 施工	ホプキンスアーキテツクス 株式会社日建設計 KAJIMA DESIGN 鹿島建設株式会社
スケジュール (予定)	2015年1月28日 (着工) 2018年1月末 (竣工予定)	

<添付資料3> 計画図

【配置図】



【断面図】

